# 白いカラス

天窪　雪路

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

## 注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
白いカラス

【Ｎコード】
Ｎ８６５４Ｐ

【作者名】
天窪　雪路

【あらすじ】
「カラスは黒い鳥なのよ」
そう教えられ、それを常識として知っていたつもりでいた僕は、偶然白いカラスも世の中に存在するのだと知った。

「カラスは黒い鳥なのよ」

そう教えられ、それを常識として知っていたつもりでいた僕は、偶然白いカラスも世の中に存在するのだと知った。もちろん、その白い怪鳥がカラスだと納得するのには少しばかりの手順が必要であった。

けれどいずれにしてもそれがカラスであると分かった瞬間に、僕が常識であると信じていた事象は音を立てて崩れ去った。と同時に、新しい常識が築かれた。

「カラスは基本的に黒い鳥であるが、中には白いヤツもいるんだよ」

それについて考えてみると、僕はこの世界のありとあらゆる常識を疑ってみたくなる。

もしかすると我々の信じていた常識というものはただ単にそのように信じられていただけの都市伝説のようなものであって、事実とはまるで反対のものであるかも知れないのだ。

加えて、何千羽というカラスを捕らえたところで白いカラスなど見つけられることはあるまい。白いカラスなんていうのは極稀な事象なのだから。ゆえに僕は余計に可能性を信じてみたくなる。

くどいようだが、白いカラスに出会えないのはそれが存在しないからではなく、単純に巡り会わないからであるのだ。だから僕はこの世界のありとあらゆる地を訪ねてみたくなる。

もしかするとキミが僕の傍からいなくなったのは、医者や看護婦、

セラピーの先生が言う、
「彼女は天国に住むことになったのだよ」
という理由とは異なる理由によるのかも知れないから。
昔二人で観た映画のように、フィレンツェのドゥオーモにでも、キミは訪れているのかも知れないのだから。

## ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n8654p/

白いカラス

2011年1月8日21時59分発行